

今月の主な内容

2面:震災特集
あの日から13年目を迎えて

7面:関学、猛追届かず ライスボウル

8面:神戸大2007年10大ニュース発表

神戸大学ニューズネット

NEWS NET

©神戸大学ニューズネット委員会 http://home.kobe-u.com/top/newsnet/index.html
関西学生報道連絡共同編集室 〒532-0011大阪市淀川区西中島3-21-9-502
電話06-6307-1315 FA X06-6307-1316 メールnewsnet@kobe-u.com

しらすな会 現地サポートも万全! 本紙の特典あり!

南紀サークル 合宿情報

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町2525-4
電話0120-53-1662
http://www.shirasunakai.jp/

2月号

震災13年

いつまでも変わらぬ思い

学内で犠牲者を追悼 遺族、学生らが参加

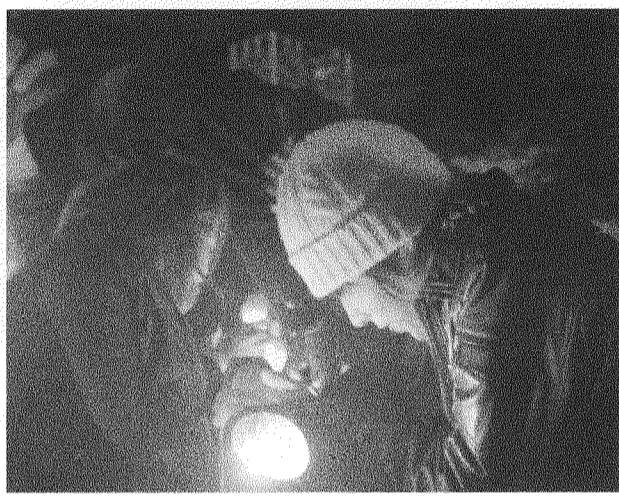
平成7年1月17日午前5時46分、6434人の命が失われた阪神・淡路大震災が発生した時刻。賑わいをみせていた街は一瞬にして瓦礫の山と化した。

あの惨事から13年。街は活気を取り戻した。一方で、人々の記憶から震災が薄れているという報道がさ

安全研究センターの北後明彦教授の研究室の学生らで組織される震災語り調査隊が、六甲台キャンパスの慰霊碑の前で、竹灯籠のなかのろうそくに灯をともし、犠牲者を追悼して

今年、同行事に震災を発足のきっかけとする学生ボランティア団体の神戸大震災救済隊が初めて訪れた。震災が発生した時刻になど、全員黙とうし犠牲者を追悼した。救済隊代表の羽尻皓二さん(工・3年)は、「13年も前のことかもしれない。けど、初心を忘れない」と決意。

17日正午には同所で献花式が行われ、遺族、教職員、学生らが参列。野上直行学長は、大学が犠牲者に対して行えることとして「被災に関する取り組みを行っていく、様々な研究にチャレンジし、発展させる」と話した。



竹灯籠に火をともす聞き語り調査隊員ら(1月17日・六甲台キャンパス慰霊碑前で 撮影=松本航)

母への思い、歌にのせて

六甲台に響き渡る

震災で犠牲となった加藤貴光さん(当時法・2年)が生前に母の律子さんに送った手紙が歌となった。母への感謝をつづった文章は「親愛なる母上様」と題され、1月18日に六甲台の慰霊碑前で作曲した音楽家の奥野勝利さんによって熱唱された。コンサートには律子さんも出席。学生や大

「私はあなたから多くの羽根をいただいたと思います。人を愛すること、自分を戒めること、人に愛されること。この二十年で、私もメールを交換した。そ

の翼には立派な羽根がそろってゆきました。」

昨年1月17日、奥野さんはインターネットで偶然その手紙を見つけ、胸を打たれた。「いつの間にか曲ができてあがっていた。完成した曲を、自身のブログに掲載。昨年11月、律子さんもまた偶然その曲を知り、感動した。すぐに奥野さんの連絡先を探し、何度もメールを交換した。そ



マイクを持つ律子さん(左)と熱唱する奥野さん(1月18日・六甲台キャンパス慰霊碑前で撮影=濱田直毅)

汽笛、13年を告げる

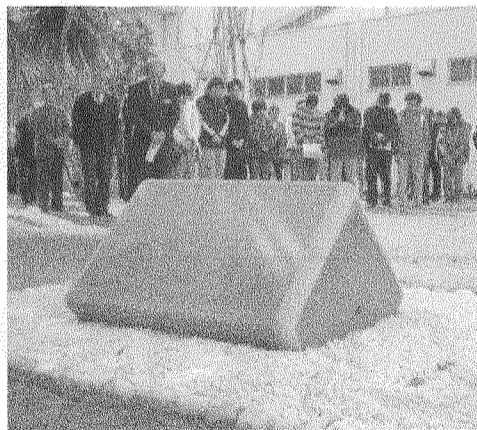
旧商船大慰霊セレモニー

海事科学部の深江キャンパスでは1月17日、阪神・淡路大震災で犠牲になった旧神戸商船大生の慰霊セレモニーが行われた。

昨年完成した「神戸商船大犠牲者慰霊碑」。震災による亡くなった、当時旧商船大の6人の名前が刻まれている。

正午。練習船「深江丸」から汽笛が高らかに鳴り、震災から13年が経過したことを告げた。

海事科学部長の石田廣史教授をはじめ、訪れた人々



慰霊碑に黙とうを捧げる人々(1月17日・深江キャンパスで 撮影=濱田直毅)

て、今年1月2日、2人は初めて対面。奥野さんは神戸大を最初とし、自身の音楽を見つめ直す旅に出ることを、律子さんはその手伝いをする決意をした。

この日、六甲台キャンパスには貴光さんの思いをのせた曲が響き渡った。律子

さんがマイクを持ち、奥野さんが熱唱。集まった観客は、そっと目を傾けた。「こ

くなくなった人の話を伝えるのが使命」と奥野さん。律子さんは「手紙は、普通性のあるメッセージのような気がします」と話した。

【濱田直毅】

落研で初笑い 新春寄席



落語研究会による「新春寄席」が1月12日、神戸学生青年センターで行われた。会場には神戸大だけでなく他大学の学生や地域住民も集まり、今年の初笑いを楽しんだ。

寄席では、4人が演目を披露。最後には8人による大喜利が行われ、会場は盛り上がりを見せた。

観客からお題をもらい、即興で笑いをとる。なごき。「お正月」というお題に、甲家朝丸さん(理・2年)は「お正月とつけて、空港と解く。その心は、都市(年)と都市(年)をつなぐ」。そう答えると「上手い」と観客からこの日一番の拍手が起きた。

全ての番組を終え、会長のみなど家のあささん(経法・2年)は「雨たっ

たのですが、お客さんが多く集まってよかった」とほとんどの表情。観客、自身も関大落語大学の部長を務めるという関大落語丸さん(関大・2年)は「大喜利とか、全部おもしろかったです」と笑顔だった。

【濱田直毅】

アメフト 神戸大4選手が 出場 えばすボウル

アメフトオールスター戦「第53回えびすボウル」が1月12日、王子スタジアムで行われ、関西学生選抜は8-14でXリーグ西地区選抜に敗れた。

神戸大からはLB西澤(経営)、OL寺坂(経営)、DL荒谷(理)、浦久保(文)の4選手(いずれも4年)が選出された。試合は第3Q12分に神戸大OBであるR.B.林木に34ヤードランTDを決められるなど、試合は終始社会人ペース。それでも学生選抜は第4Q10分にR.B.中道(立命)がパスでTD。さらにWR榎原(関学)がランでTFPを決め、点を返したが、一歩及ばず敗れた。【伊田一平】

フォルサ ラスト7秒で敗退 全日フットサル選手権

第13回全日本フットサル選手権関西大会が1月14日、大阪市中央体育館で行われた。兵庫県代表として同大会に挑んだフォルサは、2試合目のCROTALO戦を1-1で引き分け、1敗1分で選手権敗退が決まった。残り7秒だった。GL通過には勝つしかない試合。ゴール前の混戦から種々の同点弾を叩き込まれた。「運も無かったがもしも」

「運も無かったがもしも」

「運も無かったがもしも」

一週間、購読無料。

この機会に新聞を 読んでみませんか? いまなら一週間お試し キャンペーン実施中!

http://www.asa-takaha.com

朝日新聞ご購読のお申込みは

ASA 高羽

0120-084013
神戸市灘区土山町1-13
※但し灘区内在住の方に限ります。

伏流水 「去る者 日々疎し」という言葉がある。でも私には時が経つにつれてますます忘れがたく思い出される人がいる。高校3年間英語を見て下さった先生たち。居丈高で高圧的。高校3年生の時、英語に自信のあった私の心は徹底的に叩き潰された。完璧を自負した私の言葉はいつもきこえられなかった。先生のことや悔しくて、猛烈強いてテストで満点をとるにこりともしなかった。今となっては理由も思い出せないが、とにかくよく怒られた。でももう一つ、私から先生に向かっていた3年間たったように思う。先生は毎日の厳しい叱責の中にも、多くの教を私に与えて下さった。親を大事にすること、三昧すること、学問に対して謙虚であること。時間が経つにつれて、先生の教がますます尊く、私にとって必要なのもののように思われてくる。「たまたまは君ガサツと落葉すくふやうに私をさくらって行つてはくれぬか」(河野裕子) 少々強引だが、私の尊敬と恩恵をガサツとさらっていった先生を過さした日々が懐かしい。いつか、夢を叶えて成長した私でもう一度先生にお会いしたい。昔のように、先生の教を求め私にまで。

【梅本良恵】

震災から13年

あなたを忘れない 大学、学生の動きせまる

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災から13年。大学、学生内でも震災の風化を防ぐ活動が続けられている。手段・方法は様々だが、気持ちは同じ。あの悲惨な出来事を決して忘れないために。

平成7年1月17日午前5時46分。6434人の命が失われた阪神・淡路大震災。一瞬にしてがれきの山と化した。



震災聞き語り調査隊の手により竹灯ろうの中に灯がともされる。(1月17日・神戸大六甲台キャンパスで 撮影=松本航)

加した人々もいた。がれきの整理、被災者の心のケア、当時問題をなっていた仮設住宅で特に高齢者の孤独死を防ぐための介護など、その活動は多岐に及んだ。

「震災を忘れてはいけない」と話す。関西では1月9日、上ヶ原キャンパス中央講堂で大震災記念合同チャペルが行われた。学生や教職員らが集まり、讃美歌を歌うなどして犠牲者に祈りを送った。司会を務めた田淵結・文学部学教員は参加者に「学生生活を断念せざるを得なくなった先輩のことを忘れないでほしい」と参加者に訴えた。

全員の追悼する鎮魂歌、および被災者を励ます歌を合唱した。部長の新森隆司さん(神戸大・3年)は「13年前のこの日も話した。野上哲行・神戸大学長は、大学が犠牲者に対して行うこととして「被災に関する取り組みを行っていき、様々な研究にチャレンジし、発展すること」と話した。

【震災取材班】関西では、讃美歌を歌うなどして犠牲者を追悼した。(1月9日・上ヶ原キャンパスで 撮影=西田健悟)

「後輩も続いて」近大4年の森田さん
近大生物理学部4年の森田真裕さんは昨年6月、MSのクローンマウス「風鈴(すず)」を生み出すことに成功した。国内では最年少での達成とみられている。

高校の時に遺伝子分野に興味を持ち、「研究環境が整っており、バイオ分野で有名な教授陣が多かった」と同大に入学。勉学を重ねていく内に、特にクローン研究に興味を持ち、3年の時にクローン研究を行っている三谷匡准教授の研究室に入った。

「勉強は苦手」と話す森田さんだが、好きな分野であること、何より周りが真剣に取り組んでいたからここまでできたという。森田さんは最年少での達成に関して誇っていない。「先輩から代々受け継がれてきた技術、知識を自分は使いたくなくて、特に新しいことをしたい」と話している。



森田真裕さん(1月29日・近大生物理学部キャンパスで 撮影=西田健悟)

問われる学生のモラル

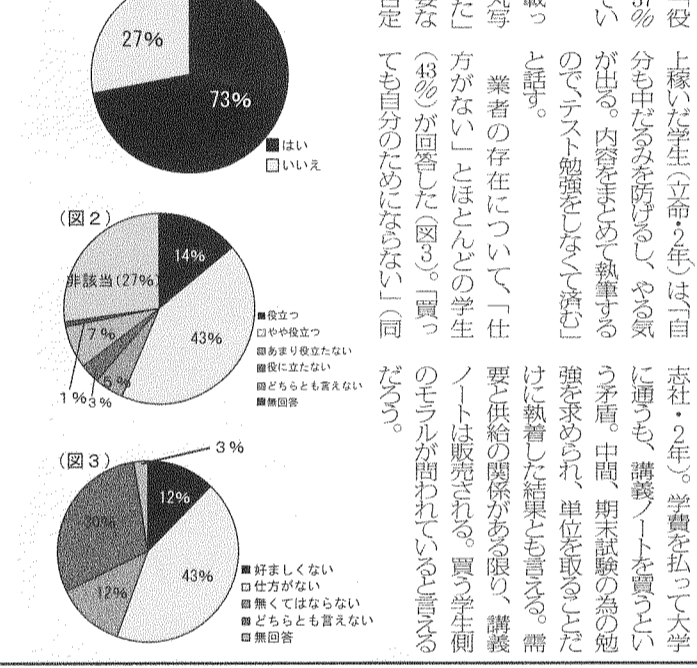
学生が執筆したノートが大学運営以外の者(ノート屋)により仲介、販売されている「講義ノート」。一部の大学では昔から存在し、試験前になると一部の学生から駆け込み寺として重宝されている。

キャンパス近くに販売店があり、1冊500~1000円程度で販売されている。執筆者は学期始めに募集され、1教科(2単位)1万円前後が報酬。ノートにはよって過渡期が付いており、1教科につき1つのノートが販売される。業者によるノートの選別があるが、購入時には中身を見ることが出来ない。ノートの質は様々。購入者は賛否両論の意見だ。

ノート購入あり、73%

「役に立つ」と回答。一役も中なるものを防げるし、やる気が出る。内容をまとめて執筆するので、テスト勉強をしなくて済む。しかし、「誤情報が載っていた」「レジュメを丸写しにしたノートがあった」「授業に出る必要はない」「金額が高い」と否定的な声も多。

業者の存在について、「仕方がない」とほとんどの学生が回答した(図2)。「買って自分のためにならない」と回答した(図3)。



「マナカナ」は6曲を熱唱。途中、ゼミ生が制作したスライドショーなども披露され、2人の学生生活の様子に会場は和やかな雰囲気。ビデオレター紹介では、難波教授が漏らした「人はずいぶん度(う)ど(う)か(か)に(に)喋(喋)る」というコメントに2人は顔を合わせ大笑い。また、特別ゲストの応援団による演奏には「間近で見えたかっつて」と2人に笑顔が弾けた。



三倉菜奈さん、佳奈さんは「卒業トーク&ライブ」に出演した。(1月11日・関西学院会館で 撮影=松本航)

涙浮かべる場面も マナカナ 卒業ライブ開催

今年3月に卒業予定で、「マナカナ」の愛称で親しまれている三倉菜奈さん(関学・4年)が1月11日、関西学院会館で行われた「マナカナ卒業トーク&ライブ」に出演した。主催は2人が所属する社会学部の難波功士ゼミ。

「マナカナ」は6曲を熱唱。途中、ゼミ生が制作したスライドショーなども披露され、2人の学生生活の様子に会場は和やかな雰囲気。ビデオレター紹介では、難波教授が漏らした「人はずいぶん度(う)ど(う)か(か)に(に)喋(喋)る」というコメントに2人は顔を合わせ大笑い。また、特別ゲストの応援団による演奏には「間近で見えたかっつて」と2人に笑顔が弾けた。

「マナカナ」は6曲を熱唱。途中、ゼミ生が制作したスライドショーなども披露され、2人の学生生活の様子に会場は和やかな雰囲気。ビデオレター紹介では、難波教授が漏らした「人はずいぶん度(う)ど(う)か(か)に(に)喋(喋)る」というコメントに2人は顔を合わせ大笑い。また、特別ゲストの応援団による演奏には「間近で見えたかっつて」と2人に笑顔が弾けた。

「マナカナ」は6曲を熱唱。途中、ゼミ生が制作したスライドショーなども披露され、2人の学生生活の様子に会場は和やかな雰囲気。ビデオレター紹介では、難波教授が漏らした「人はずいぶん度(う)ど(う)か(か)に(に)喋(喋)る」というコメントに2人は顔を合わせ大笑い。また、特別ゲストの応援団による演奏には「間近で見えたかっつて」と2人に笑顔が弾けた。

お知らせ (2月中旬~3月末)

- シンポジウム
3大学連携シンポジウム
神戸大、阪大、京大は2月27日、大阪国際会議場特別会議室(大阪市北区)で午前10時から国際シンポジウムを行う。第1回目となる今回は阪大が担当。「情報科学」分野を対象とした大学間連携による高度人材育成に関するテーマを設定し、講演を行う。ホームページは <http://www.3uni.jp/>
- 学生団体
日本一決めるダンス大会
「大学生による大学生のための全国ストリートダンスコンテスト」の決勝「BUZZ STYLE FINAL08」が2月23日、ZEPP OSAKA(大阪市住之江区)で午後3時から行われる。前売りは2500円。当日券は3000円。問い合わせは businessstyle_2@yahoo.co.jp まで。
- 阪神の学生による展示会
阪神地区の大学で組織される「神戸学生制作会」は2月26日から3月2日にかけてACTA(西宮市)で展示会を行う。
- 建築研究の成果を発表
立命館、京大生などで組織される「京都学生建築学生会」による合同卒業設計展「Diploma KYOTO'08」が2月28日から3月1日にかけて京都市勧業館みやこめっせで行われる。問い合わせは info@diplomakyo.jp まで。

2007年 神戸大 10大ニュース

2007年度も様々なことがあった神戸大。特に文化面では、はしかの影響ですべての学生が自宅待機を義務づけられ、部活動にも支障が発生した。スポーツ面では、女子タッチフットボール部が関西制覇を果たし、学内を盛り上げた。神戸大ニューズネット編集部は年間の出来事を10大ニュースにまとめだ。

1位 学生に多大な影響

はしかで12日間の休校

昨年、全国で猛威をふるったはしか(麻疹)。全国の大学で休校などの措置が取られていた中、神戸大でも5月中旬から下旬にかけて感染者が3人発生。感染拡大を防止する為、神戸大は5月31日、6月1日から12日までの間、大学院を含む全学休校とすることを発表した。

また、神戸大は、全ての学生に向けて休校期間中は自宅待機することを呼びかけ、各キャンパスへの入構、全ての課外活動を禁止した。この為、2日に予定されていた交響楽団によるサマーコンサートは7月1日に延期。また、3日に予定されていたアメリカンフットボール部の龍谷大との試合が中止となるなど、課外活動に大きな影響が出た。

休校期間に行われる予定だった講義は後日補講された。現在、騒動は収束しているが、今年もはしかが流行する可能性はある。神戸大は外出後はうがい、手洗いをし、予防接種を受けるなどの感染対策を学生に促している。

2位 7年に及ぶ裁判が終了

大日岳遭難事故、和解が成立

平成12年3月に起こった大日岳遭難事故。遺族が国に約2億円の損害賠償を求めた訴訟の和解協議が7月26日に名古屋高裁金沢支部で行われ、国が事故再発防止のため検討委員会を設置すること、遺族に損害賠償を支払うことなどを条件に和解が成立した。

和解内容について、国秀さんの父・不二男さんは「120%の勝利」と話した。「100%」とは、一審判決で認められた国から遺族へ対する損害賠償が再び認められたこと。そして「20%」とは国が遺族への謝罪をすること、冬山登山研修会を「安全検討会」を設置することで国が再開を検討することが決まったことだった。

3位 タッチフット部が悲願達成

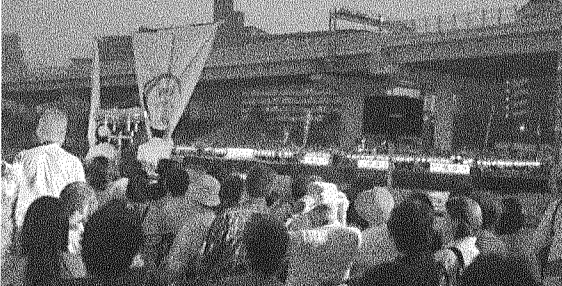
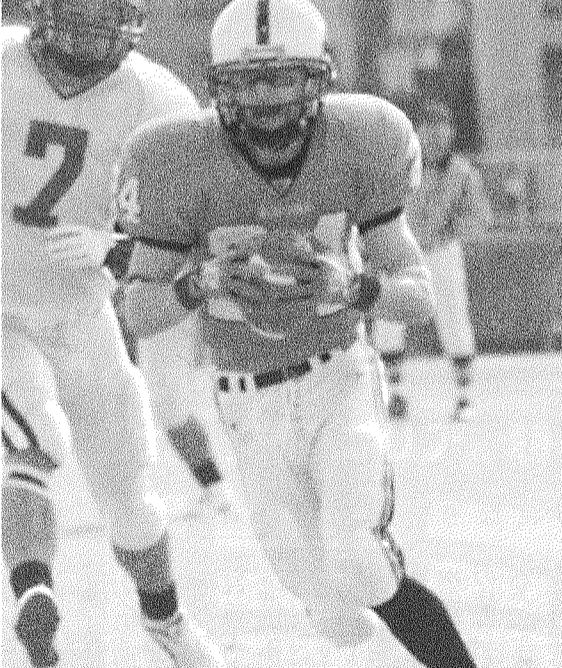
ROOKS、関西制覇

関西学生女子タッチフットボール秋季リーグ最終節、神戸大ROOKS-武庫川女大の試合が10月28日に聖和大学グラウンドで行われた。全勝同士の戦いをROOKSが26-13で制し、4年ぶりのリーグ制覇を達成した。

戦いは序盤から動く。「王者」武庫川女大の多彩な攻撃に対し、ROOKSも高田(理)、村田(発達)、中勝(医)の4年生トリオをパス攻撃の中心としTDを奪う。同点で迎えた第2Q終盤、QB佐野(発達・2年)がラン中央突破で執念のTD。待望の勝ち越し点が入る。

後半はD F陣が必死に守った。試合終了の合図と同時に、過去涙を飲み続けたROOKSが関西王者の座を手にした。「チームが一体感を持って結果」と今岡コーチ。MVPの高田も「リーグを通してチームが変わっていった」と満足感を見せた。それでも11月の東西王座決定戦では武庫川女大に決勝で敗北。日本一への夢は絶たれた。

古着で地域と交流
まちTシャツゆうえんち地域から回収したTシャツを使ったイベント「まちのTシャツつゆうえんち」が9月8日、9日、都賀川公園で開催された。主催のまちプロジェクト実行委員会が集めた使い古しのTシャツは約4500枚。神戸大で建築を研究している工学部の院生が中心となり昨年5月に始動した。七色のTシャツが会場を彩り、「Tシャツ工房」ではTシャツで草履や靴を顧客とともに作り楽しませた。委員長の狩野貴久さん(工学研究科・1年)は「これから社会に出ていく学生として社会に挑戦したかった」。半年に及ぶプロジェクトは終了するが、「学生が自分たちの枠を越えて考えてほしい」と話した。



4位

救援隊と総ボラ、能登で足湯サービス

神戸大学学生震災救援隊や神戸大学総合ボランティアセンターなどの学生でつくる「中越・KOB E足湯隊」が3月30日と31日に能登半島地震で被害の大きかった石川県輪島市門前町や穴水町の避難所で被災者に足湯マッサージのボランティアを開始した。被災者にバケツに入った湯に足をつけてもらい、手や腕、足をマッサージする。同時に、被災者がどんなことを考えているのか、どういった要望があるのかを直に触れ合うことで聞きたす。被災者のつぶやきは報告書にまとめ行政に提出し、今後の復興に役立てられる。

初回の足湯隊のリーダーである益本慎朗さん(発達・4年)は「避難所生活にほっとしていただけたら」と話している。

足湯活動は年間で7回行われた。

5位

旧神戸商船大の慰霊碑完成

海事科学部の深江キャンパスで阪神・淡路大震災で犠牲になった旧神戸商船大の6人の慰霊碑除幕式が1月17日午後1時半から行われた。式には野上晋行学長をはじめ多くの大学関係者、学生が参加した。

商船大は平成15年に神戸大に統合され、「海事科学部」として新たなスタートをきった。震災により旧商船大では当時4年の山内傑登さん、3年の土屋孝博さん、春藤量隆さん、大学院1年の神田徹さん、アルジェリアからの留学生のマスキリマジットさん、研究員の武力平さんら6人が亡くなっている。

慰霊碑除幕式では、最初に野上学長が挨拶。犠牲になった6人の名前を読みあげ、「私たちは何のためにここで学んでいるのか、研究しているのか、思いを新たにできる機会になりたい」と話した。

6位

経済夜間主の募集停止

神戸大は平成20年度入試(第3年次の編入学も含む)より経済学部夜間主コースの募集を停止することを7月20日、経済学部ホームページなどで発表した。

夜間主コースは昼間に働いている社会人や経済的事情を抱える学生のため、法、経営経済学部に設置された。しかし、社会人教育が大学院へ移行している近年の傾向や勤労学生の減少により、同コースの存在意義が形骸化。そのため神戸大は平成15年の法学部17年の経営学部へ引き継ぎ、経済学部でも募集停止に踏み切り、60年の歴史に幕を閉じた。平成19年度に入学生した社会人学生は「流れとはいえず、なくなるのは寂しい」と話した。

なお、経済学部は平日夜間と土曜日に社会人リカレント教育プログラムを経済学研究科に設置する予定。

7位

男子バレー部、18年ぶり2部昇格

1、2年生が中心。絶対的なエースはいないが、ブロッカーなどの守備やセッターからの速攻、バックアタックなどコンビ攻撃で得点を奪い、総合力で勝ち上がった。

「OBの方に支えられてここまで来た」と河南主将(農・3年)は笑顔で振り返った。最高学年が3年生の神戸大は、来年の春も現在の戦力で戦う。「2部でも一つでも多く勝ってほしい」と河南主将。やっとの思いでつかんだ挑戦権。そう簡単に手放さない。

8位

学友船、出船を終了

神戸大学学術事業会は、日本三大祭の一つで毎年7月25日に行われる天神祭に奉拝船として参加していた神戸学友船の出船の終了を決定した。

学友船は平成15年から天神祭に参加。毎年大阪で行われる天神祭には、神戸大だけでなく、関大も参加し、出航前の船上では三大学の間でエール交換が行われるなど、学間の交流にも役立っていた。だが、船の労働者の高齢化や後継者不足などの理由で、天神祭に参加する奉拝船の数を削減することが決定された。一隻の船にかかる出船料金を引き上げざるを得なくなった。そのため神戸大は経済的な理由で平成19年の天神祭を最後に出船を終了することを決定した。神戸学術事業会の中谷正司さんは「本当に申し訳ない」と話した。

10位

レイバンス薄氷の勝利
ウエスタンボウル
アメリカンフットボールの第11回・西日本大学王座決定戦「ウエスタンボウル」が12月9日に福岡市の平和台陸上競技場で行われた。関西学生リーグから6位の神戸大レイバンスが代表として出場し、九州学生リーグ1位の九州大と対戦。神戸大は苦戦を強いられながらも、27-17で勝利した。薄氷の勝利だった。神戸大は、体重が100キロ以上の選手がずらりと並ぶ九州大ライン陣に大苦戦した。

だが、第4Q3分。QB大原(経済・3年)からWR大園(発達・2年)へのTDパスで勝利をたぐり寄せた。「ほんまに負けらんかと思つた」。安井ヘッドコーチは試合後、安堵の表情だった。